

(3) 北 関 東



北関東地域では、景気は回復している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費は緩やかに回復している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

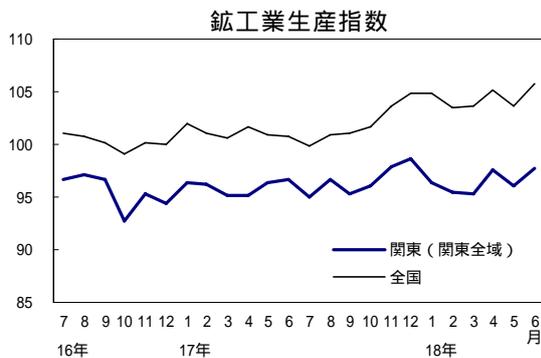
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 18 年 5 月)	今回 (平成 18 年 8 月)	
個人消費	持ち直している	緩やかに回復している	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。(関東全域)

一般機械は、フラットパネル・ディスプレイ製造装置や半導体製造装置が、国内外向けに好調であったことから、増加している。化学は、カラーロールフィルムの減少や、定期改修と重なったこともあり、2四半期連続で減少した。輸送機械は、軽自動車を中心に自動車等が好調であったため、増加している。情報通信機械は、PHS、携帯電話の新機種が生産が少なかったことにより、2四半期連続で減少した。電気機械は、アルカリ蓄電池は好調であったものの、パソコンのバックライト等に用いられる蛍光灯が低調に推移したために、おおむね横ばいとなった。



- (備考) 1. 12年=100、季節調整値。
2. 平成18年6月の関東は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
一般機械	13.8	0.9	6.0	6.8	0.9
化学	13.7	2.6	2.2	0.1	6.2
輸送機械	11.3	6.2	1.8	1.5	15.7
情報通信機械	8.6	3.3	10.0	8.1	4.1
電気機械	7.9	0.4	0.4	1.0	10.8
鉱工業	100.0	1.8	1.6	2.1	1.5

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

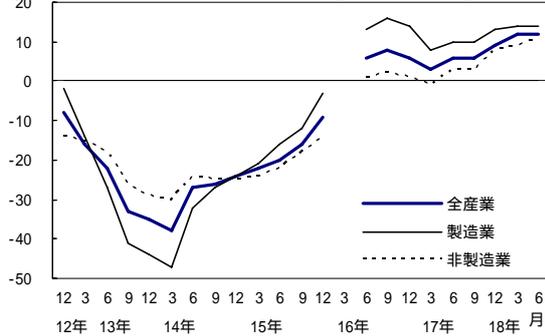
2. 4~6月期は速報値。

3. 4~6月期の化学の生産、出荷は、4月、5月確報値の平均より算出。在庫は、5月確報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が横ばいとなっており、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

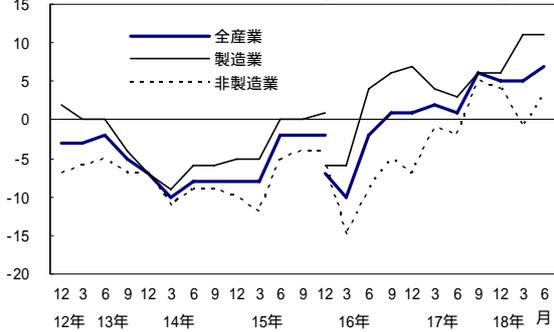
(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。

旧基準は15年12月まで。新基準は16年6月から。
関東全域(新潟県を含む)

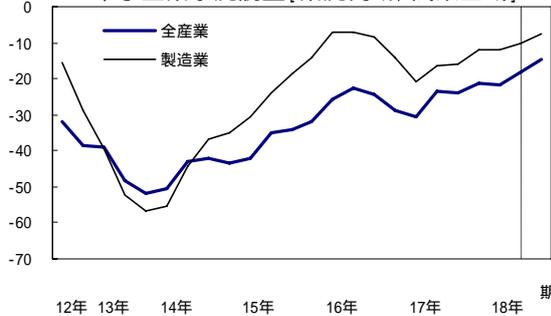
(%ポイント)企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。

15年12月は新・旧基準を併記。
旧基準は関東全域、新基準は日本銀行前橋支店管内。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断、関東全域]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。18年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

「東証1部上場の取引先の工作機械は来年半ばまで受注が一杯であり、産業機械も好調に推移している。我々協力工場の受注量、単価も順調である。特に工作機械では、単価より品質重視の傾向になっている(金属製品製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

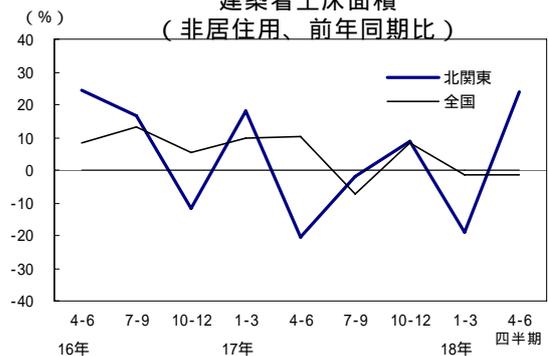
(3) 18年度の設備投資は前年度を下回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	17年度実績	18年度計画
全産業	26.9(14.8)	4.2(2.5)
製造業	12.4(6.3)	26.2(2.2)
非製造業	99.0(53.6)	28.7(2.8)

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。
調査対象は日本銀行前橋支店管内。

建築着工床面積
(非居住用、前年同期比)



(3) 北関東

2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに回復している。

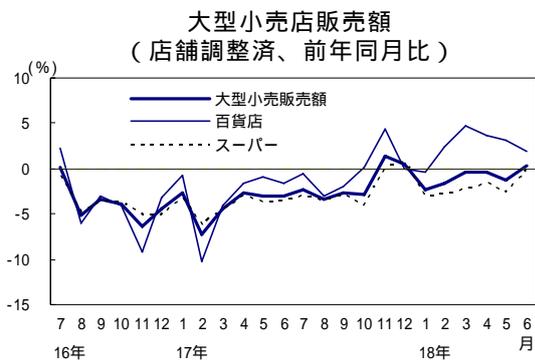
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、4月は、気温が低めに推移したため、季節衣料が不調であったものの、移転改装効果等により身の回り品や家庭用品が好調であったことから、前年を上回った。5月は、クールビズ効果等で紳士服が好調であったことに加え、ワールドカップ効果により家庭用電気機械器具にも動きがみられたことにより、前年を上回った。6月は、日照不足等により季節衣料を中心に衣料品全般が低調であったものの、物産展効果等により飲食料品が好調であったことから、5か月連続で前年を上回った。

スーパーは、主力の飲食料品に動きはあったものの、天候要因等により衣料品が不振であったこと等から、6か月連続で前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

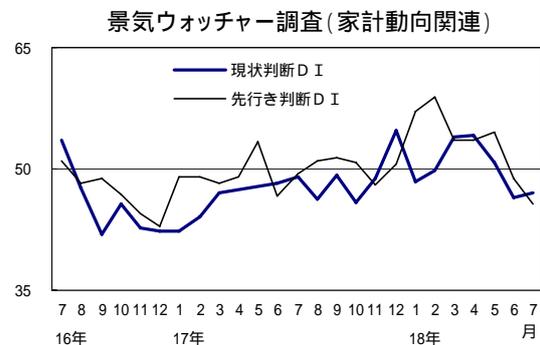
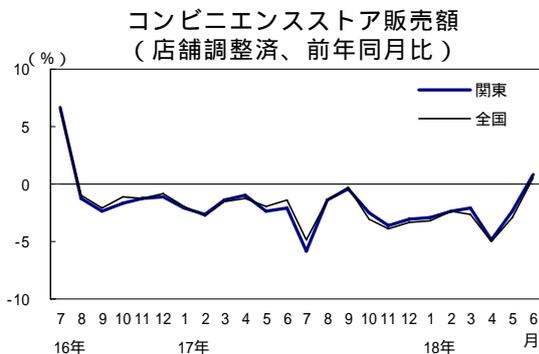
「客の口から「ボーナスで」という言葉が出てこない。衝動買いはみられず、出ているであろうボーナスはどこに回っているのか、出費に慎重である(一般小売店[家電])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	17年7-9月	10-12月	18年1-3月	4-6月
大型小売店	2.8	0.3	1.4	0.4
百貨店	1.7	1.3	2.2	2.9
スーパー	3.1	1.0	2.8	1.6
コンビニ	2.6	3.0	2.4	2.2
景気ウォッチャー	48.2	49.8	50.7	50.4

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。18年4-6月期は速報値。コンビニは関東全域。

2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

持家、貸家、分譲が前年を上回ったことから、全体では大幅に増加している。

(3) 公共投資は18年度累計で見ると前年度を下回っている。

